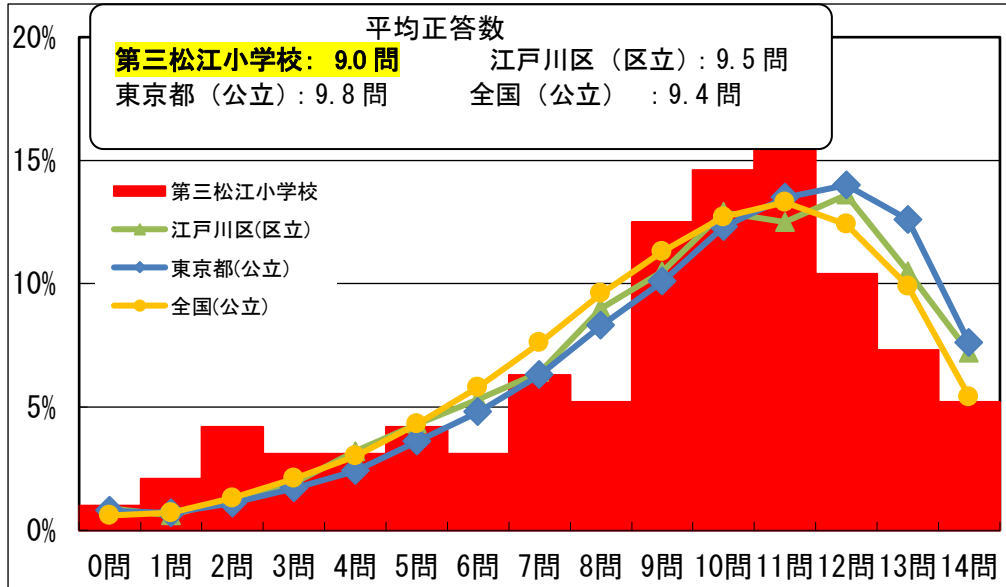


# 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 第三松江小学校

## 正答数分布



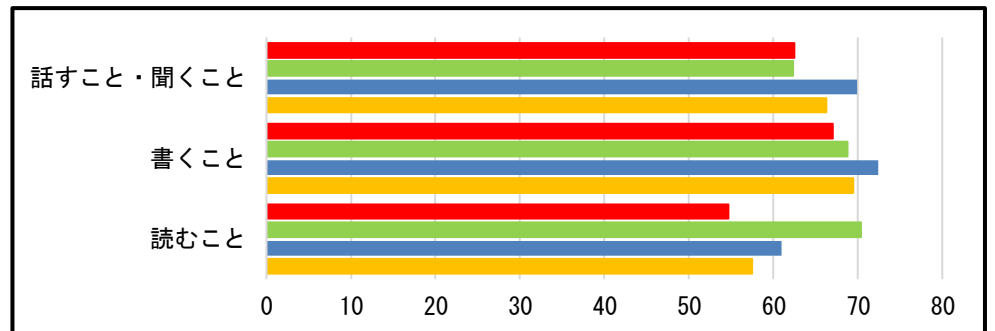
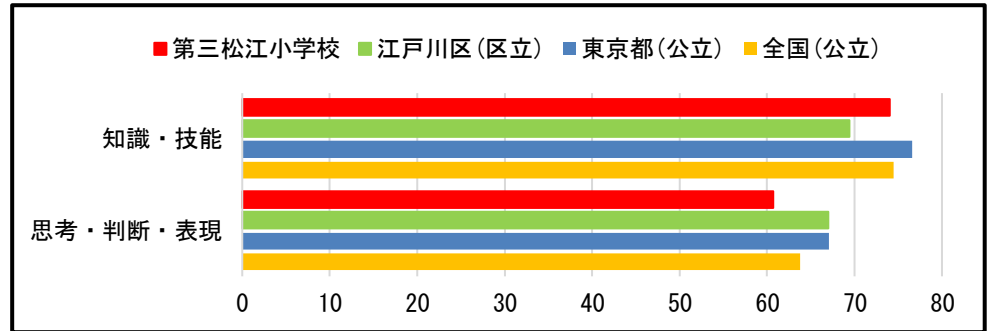
### <四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 7~9問	D層 0~6問
第三松江小学校	22.9	32.3	24	20.8
江戸川区(区立)	30.0	25.8	19.5	24.7
東京都(公立)	34.2	25.8	28.5	15.1
全国(公立)	27.7	26	28.5	17.8

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



### 【平均正答率の差】

第三松江小学校	65%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差	5ポイント

### 【分析結果と授業改善に向けて】

- ・B層が最も多い結果となった。CD層を中心に、基礎の定着を徹底することが早急に求められると考える。
- ・どの領域においても、都の平均を下回った。習得した漢字や文法を、暗記するだけでなく、日常の中で活用し表現する機会を増やす。「書くこと」の領域では、豊富な語彙に触れさせ、それらを使った短文を日常的に書く機会を設ける。「読むこと」の領域では、読む観点を明確に提示することで、目的に応じて必要な情報を取捨選択できる力を養っていく。